本調査の特徴

2005年３月に、首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）の就学前の幼児をもつ保護者を対象に「第３回幼児の生活アンケート」を実施した。本調査は、この国内での調査とほぼ同じ時期に、ソウル・北京・上海・台北において、日本国内と同じ内容の調査を行ったものである。

本調査の特徴は以下のようにまとめられる。

１．東アジア５都市の幼児の生活と保護者の子育てに関する意識を把握することができる

本調査は、首都圏の就学前の幼児をもつ保護者を対象に実施した「第３回幼児の生活アンケート」をベースに、ソウル・北京・上海・台北の幼児の生活実態と保護者の子育てに関する意識を把握することを目的として企画されている。質問項目は、調査実施対象となる国・地域の実情に応じて追加・削除はあるが、ほぼ同一のものを使用している。

２．幼児の生活と保護者の子育てに関する幅広い内容を聞いている

幼児の基本的な生活時間、メディアとの接触、習い事など、幼児の生活に関する幅広い内容を調べている。また、幼児の生活にとどまらず、保護者の子育てに関する意識と実態についても広範囲で聞いている。

３．調査実施対象となる国・地域の幼児教育界における 第一人者が調査を実施し、分析している

本調査は、それぞれの国・地域の幼児教育界の第一人者が現地での調査を実施し、各都市の結果について分析している。東京・ソウル・北京・上海・台北の幼児の生活実態を知る基礎的な資料といえる。

調査概要

1．調査テーマ

東アジア５都市（東京・ソウル・北京・上海・台北）における幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態

2．調査時期・対象・地域・方法

	東　京	ソウル	北　京	上　海	台　北
調査時期	2005 年３月	2005 年４月	2005 年３月	2005 年３月	2005年5月～6月
調査対象	３～６歳の就学前の幼児をもつ保護者				
	1,007 人	941 人	992 人	935 人	2,259 人
調査地域（※）	東京駅から40km 圏内の市区町村	ソウル市、京畿道	北京市	上海市	台北市、台北縣、基隆市、桃園縣
調査方法	郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）	幼稚園・保育施設通しによる家庭での自記式質問紙調査（10園、21 施設）	幼児園通しによる家庭での自記式質問紙調査（８園）	幼児園通しによる家庭での自記式質問紙調査（７園）	郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

※調査地域：東京・ソウル・台北での調査地域は、各都市を中心にして周辺地域を含んでいる。ただし、本報告書では、それぞれ「東京」「ソウル」「台北」と表記する。

3．調査項目

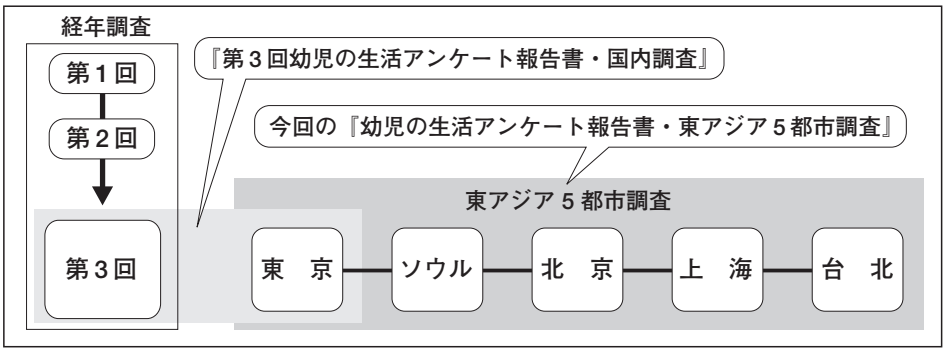
子どもの基本的な生活時間／習い事／メディアとのかかわり／母親の教育観・子育て観／子どもの将来への期待／今、子育てで力を入れていること／母親の子育て意識／父親の家事・育児参加／子育て支援など

分析枠組みとサンプル構成

● 分析枠組み

本報告書の分析枠組みは、次のとおりである。

分析枠組み



※国内の経年調査についての詳細な分析は、『第３回幼児の生活アンケート報告書・国内調査』（2006年１月既刊）にて報告している。

● サンプル構成

本報告書のサンプル数は、以下のとおりである。

（人）

都市名	サンプル数	性別	３歳児	４歳児	５歳児	６歳児	性別合計
東　京	1,007	男子 女子	133 146	130 117	112 148	115 106	490 517
ソウル	941	男子 女子	89 79	155 163	183 203	36 33	463 478
北　京	992	男子 女子	74 119	186 163	163 167	65 55	488 504
上　海	935	男子 女子	87 77	166 138	151 150	88 78	492 443
台　北	2,259	男子 女子	94 88	391 369	309 339	324 345	1,118 1,141

ウェイトについて

データの精度を高めるため、比推定を用い、調査対象の属性別構成比を加工した。

本報告書で使用したウェイトは、調査票１枚が代表する人数、つまり、「推計人口」／「幼児の生活アンケート回答者数」を、下のように母集団を８の区分に分割して計算することにより作成されたものである。

子どもの性別（２区分）×子どもの年齢別（４区分）

ウェイトを作成するにあたり、子どもの年齢および子どもの性別不詳者は「幼児の生活アンケート回答者」から除外している。その結果、本報告書の分析からも除外されている。

● 本報告書を読む際の注意点

本報告書を読む際の注意点は、次のとおりである。

1．分析の対象者について

調査概要に示したとおり、東京・台北とソウル・北京・上海では、調査方法が異なる。ソウル・北京・上海では園通しの調査を行っているため、就園児のみのサンプル構成になるなど、子どもの就園状況は実際の母集団を反映していない。調査結果を読む際には、この点に注意する必要がある。

2．分析の対象について

本調査は、母親または子どもの世話を主に担っている人に回答をもとめている。そのため、回答者には母親以外も含まれている。とくに北京・上海・台北で父親が回答する比率が高かった（p.9 図B－1）。

以下の項目では、父親と母親で回答傾向が異なると考えられるため、本報告書では母親の回答のみを抽出して分析している（カッコ内は調査票の問番号）。巻末に掲載した基礎集計表も同様である。

・子育てで力を入れていること（Q10）
・子どもの将来への期待（Q11－1）
・子どもの進学に対する期待（Q11－2）
・母親の就業状況および仕事に対する夫の理解（Q12）
・子育て意識（Q13）
・現在の生活や子育ての満足度（Q14）
・父親の帰宅時刻（Q15）
・父親の育児・家事参加状況（Q16）
・父親の育児・家事参加に対する満足度と要望（Q17）
・子育て支援（Q18）
・幼稚園・保育園に対する要望（Q21）
・子育てに関する意見（Q23）

3．「東京」の数値について

今回の報告書では「第3回幼児の生活アンケート」の際に行った東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の4都県のサンプルのうち、東京駅から40km圏内の市区町村に居住する3～6歳の幼児をもつ保護者の回答のみを対象に分析を行っている。そのため、『第3回幼児の生活アンケート報告書・国内調査』とは数値が異なる。

4．百分比（%）およびサンプル数について

本報告書の百分比（%）は、すべてウェイトをつけて算出されている。また、サンプル数はすべてウェイトをつける前のサンプル数を記した。

5．百分比（%）について

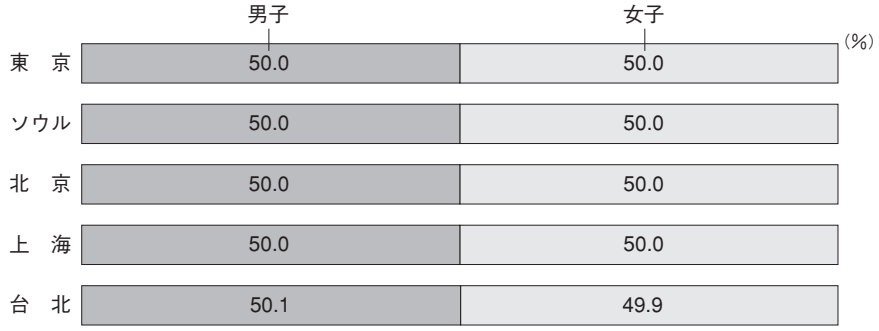
百分比（%）は有効回収数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、各々の項目の数値の和と合計を示す数値とが一致しない場合がある。

基本属性

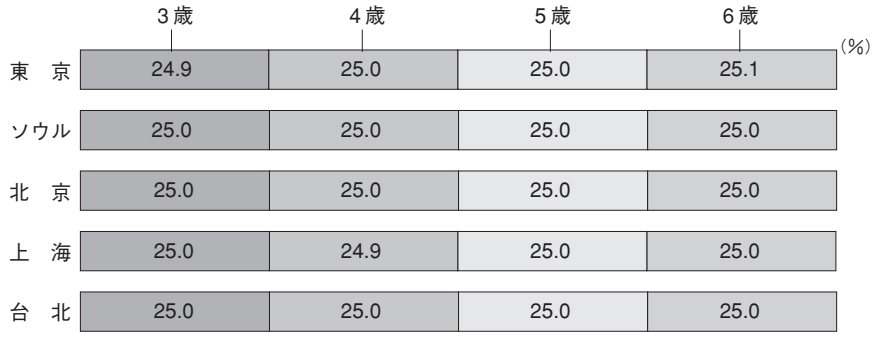
ここで説明する基本属性は、東京1,007人、ソウル941人、北京992人、上海935人、台北2,259人の３～６歳の就学前の幼児をもつ保護者を母数とし、かつウェイトづけして算出した数値である。

A 子どもの属性

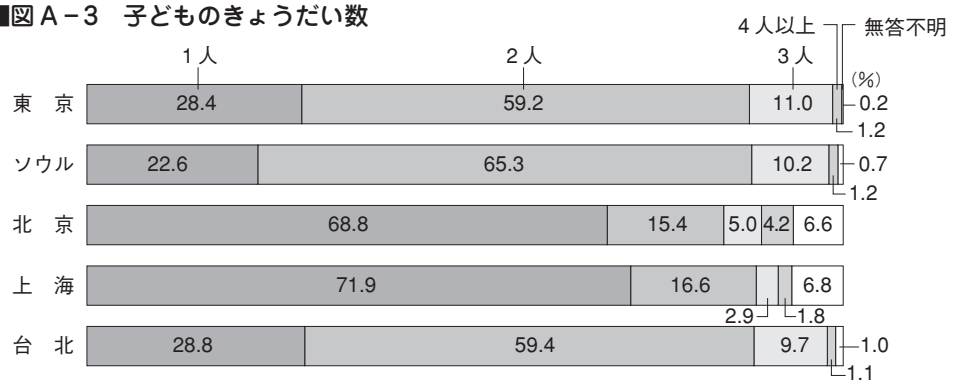
■図Ａ－１　子どもの性別



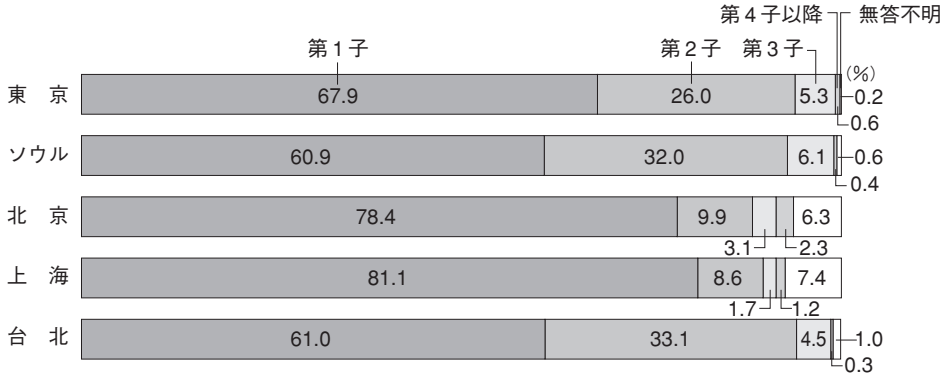
■図Ａ－２　子どもの年齢



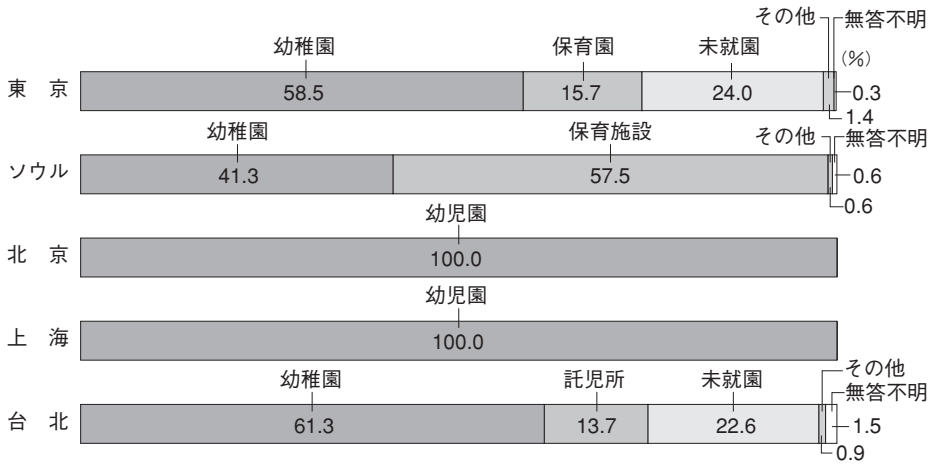
■図Ａ－３　子どものきょうだい数



■図Ａ－4　子どもの出生順位

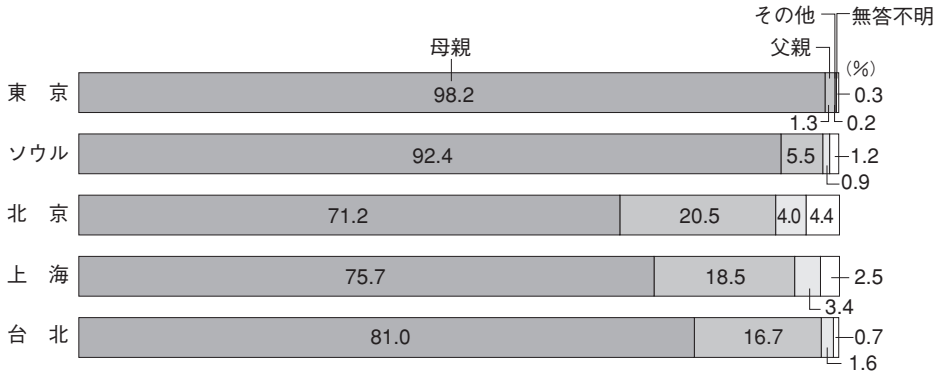


■図Ａ－5　子どもの就園状況

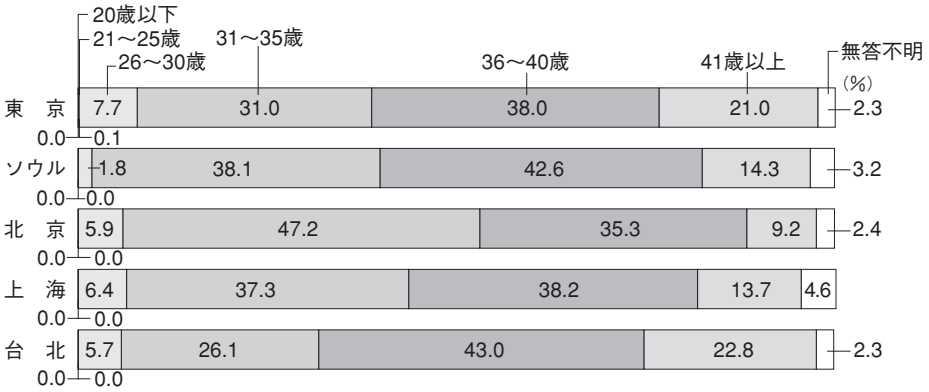


B 保護者の属性

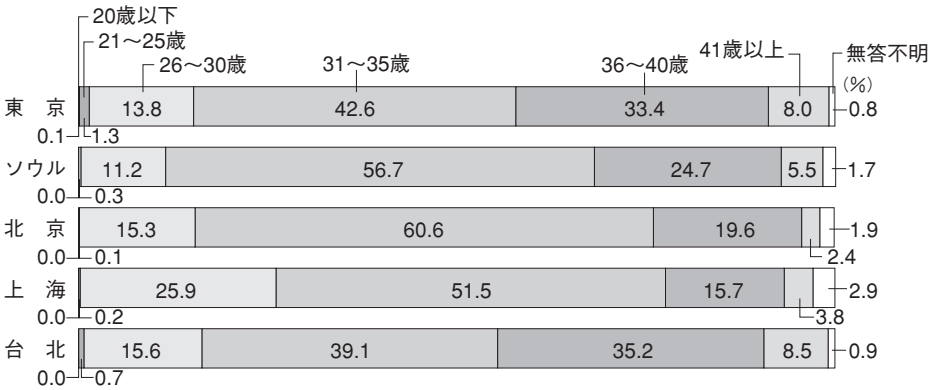
■図Ｂ－1　回答者と子どもとの関係



■図Ｂ－2　父親の年齢



■図Ｂ－3　母親の年齢



※父親・母親の平均年齢

	東　京	ソウル	北　京	上　海	台　北
父親	37.1歳	36.8歳	35.7歳	36.5歳	37.8歳
母親	34.7歳	34.3歳	33.5歳	33.1歳	35.0歳

注）無答不明を除いて算出した。

■表Ｂ－1　母親の就業状況

(%)

	東　京 (989人)	ソウル (874人)	北　京 (707人)	上　海 (709人)	台　北 (1842人)
常勤（フルタイム）	7.9	24.8	76.3	68.7	63.0
パートタイム	13.9	6.2	0.8	0.0	3.7
専業主婦	68.0	50.8	5.0	9.9	23.0
フリー（在宅ワークを含む）	5.2	7.7	9.4	12.1	3.9
産休、育休中や休職中	1.3	1.8	0.8	0.7	0.7
その他	2.0	8.0	1.5	0.7	0.5
無答不明	1.6	0.8	6.2	8.0	5.2

注1）母親の回答のみ分析。
注2）＝＝は各都市における最大値、――は次に大きな値を示す。

■表Ｂ－2　父親の最終学歴

(%)

	東　京	ソウル	北　京	上　海	台　北
中学校	3.5	0.5	2.6	1.6	3.5
高等学校	23.4	25.7	9.8	9.2	9.1
専門学校	14.3	—	1.6	1.6	13.0
高等専門学校	2.1	—	—	—	—
短期大学	1.4	12.6	20.7	18.7	27.9
四年制大学	45.5	46.7	37.5	37.2	28.7
大学院（六年制大学を含む）	5.9	10.5	17.1	20.9	16.4
その他	0.5	1.2	4.1	3.1	0.5
無答不明	3.4	2.6	6.5	7.6	0.9

注１）ソウルでは「専門学校」「高等専門学校」に相当する項目をたずねていない。北京・上海・台北では「高等専門学校」に相当する項目をたずねていない。
注２）＝＝は各都市における最大値、——は次に大きな値を示す。
注３）専門学校について、北京と上海では「職業高等学校」、台北では「高等職業学校」となっている。

■表Ｂ－3　母親の最終学歴

(%)

	東　京	ソウル	北　京	上　海	台　北
中学校	1.8	0.4	2.5	2.0	1.6
高等学校	25.3	38.8	8.0	11.9	7.1
専門学校	19.8	—	2.6	2.3	18.8
高等専門学校	2.1	—	—	—	—
短期大学	28.6	20.2	28.6	28.9	33.9
四年制大学	18.6	32.8	37.3	32.1	30.3
大学院（六年制大学を含む）	0.9	5.2	8.8	11.3	7.5
その他	0.2	0.7	5.8	3.8	0.3
無答不明	2.8	1.8	6.4	7.6	0.5

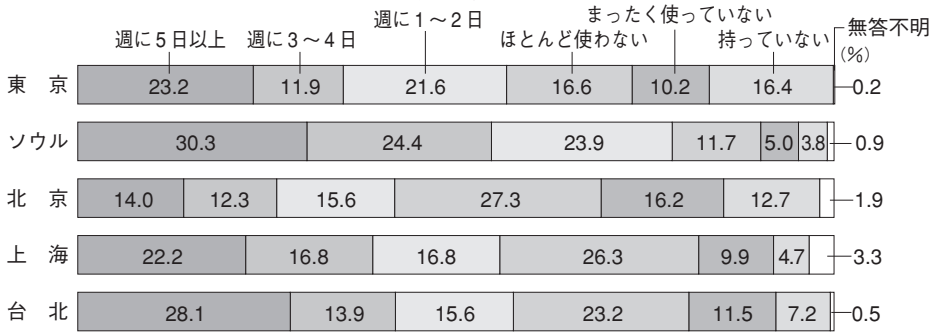
注１）ソウルでは「専門学校」「高等専門学校」に相当する項目をたずねていない。北京・上海・台北では「高等専門学校」に相当する項目をたずねていない。
注２）＝＝は各都市における最大値、——は次に大きな値を示す。
注３）専門学校について、北京と上海では「職業高等学校」、台北では「高等職業学校」となっている。

C その他

■表Ｃ－1　祖父母との同居

(%)

	東　京	ソウル	北　京	上　海	台　北
（父方の）祖父	7.3	10.9	20.2	14.6	24.9
（父方の）祖母	9.9	15.8	25.4	19.4	32.1
（母方の）祖父	4.3	8.6	15.9	18.3	6.5
（母方の）祖母	5.5	12.7	19.9	24.0	8.4
祖父母と同居していない	81.0	71.1	51.5	52.1	55.2

注１）ソウルでは、「祖父母と同居していない」の項目をたずねていない。したがって、ソウルの「祖父母と同居していない」の比率は「（父方の）祖父」「（父方の）祖母」「（母方の）祖父」「（母方の）祖母」のうち、いずれも選択していない人の比率を示す。
注２）複数回答。

■図Ｃ－1　回答者のインターネットの利用率